

# 第 2 回 Unified Flyingdisc Session <実施報告書>

2019年9月20日



一般社団法人日本ドッヂビー協会

日 時 : 2019年9月8日(日曜日) 10:00~12:30

会 場 : 千代田区立麹町中学校 体育館

東京都千代田区平河町2-5-1

主催: 一般社団法人日本ドッヂビー協会 <DBJA>

主 管 : 千代田区ドッヂビー協会 < DBAC>

協 賛 : ワタミ株式会社 / 東京キリンビバレッジサービス株式会社

参加料 : ひとりあたり¥500-(傷害保険加入費・消費税 等一式を含む)

参加賞: ワタミグループ全店で使用できる500円お食事券

キリンラブズスポーツ555ドリンク

#### 参加者一覧 13組 42名 当日の構成 障がい種 現在所属先 1 3人 親子 知的 特別支援高校 2 3人 特別支援高校 親子・兄弟 知的 3 3人 親子 知的 特別支援中学校 3人 4 親子 5 3人 親子・兄弟 ダウン症 小学校 3人 6 親子 知的 B型作業所 2人 7 親子 知的 8 5人 親子2組 知的 サークル 9 5人 友人グループ 知的 サークル 4人 親子2組 知的 サークル 10 2人 11 兄弟 特別支援高校 知的 4人 友人グループ 12 精神・療育 B型作業所 13 3人 友人グループ 精神・療育 B型作業所

# 当日スケジュール

9:15~ 入場・受付開始

10:00~ 主催者挨拶 ~ イベント開始

今日のプログラムの全体説明 ~ おこなうことの流れ

10:10~ ドッヂビー・チャレンジサーキットのルール説明

10:15~ ディスクの投げ方・捕り方の説明およびデモンストレーション

10:20~ ドッヂビー・チャレンジサーキット

主催者が選択して実施した4アイテム

1) ドッヂビー・ディスゲッター

2) ドッヂビー・キャッチ

3) ドッヂビー・ドッジ

4) ドッヂビー・フープ

10:45~ 1人でもできる練習方法の紹介 ~ 投げ上げドッヂビー

10:50~ 休憩

11:00~ ディスクドッヂ・ゲーム

複数の組を主催者が決定してまとめた4チームによるトーナメント戦

1試合目 ~ 予選1、 Bチーム vs Cチーム

2試合目 ~ 予選2、 Aチーム vs Dチーム

3試合目 ∼ 3位決定戦 Aチーム vs Bチーム

4試合目 ~ 決勝戦 Cチーム vs Dチーム

12:10~ イベント終了挨拶・アンケート記入

12:20~ 全員による集合写真の撮影

# 【プログラムの内容と効果】

#### ●ドッヂビー・チャレンジサーキットとは

最もポピュラーなドッヂビーを使った種目はディスクドッヂですが、障がいのある方々に挑戦していただくにあたり、ディスクドッヂに必要な「投げる」「捕る」「避ける」といった動作をあえてバラバラにした1つずつのコーナーとして体験します。

複数のコーナーをサーキット形式で体験することによって少しずつ、楽しみながら、 ディスクドッヂというゲームをおこなう時に必要な動きを自然と練習したことになる ことを想定した要素で構成した【基本的なプログラム】です。

各コーナーの構成内容と期待する効果は以下の通りです。

#### 1) ドッヂビー・ディスゲッター

縦横3枚ずつのパネルに向かって強く正確にドッヂビーを投げて、パネルを抜き落とすストラックアウトのような種目です。目標物があることによってディスクを投げる際の正確性を獲得することができます。また、人ではなくパネルに向けて投げるため、初めての人でも思いっきりよく投げることができます。

#### 2) ドッヂビー・キャッチ

スタッフが投げるドッヂビーをキャッチする種目です。「速い」「普通」さらに「ゆっくり」と3段階にすることによって、参加者に応じて難易度を変えることができ、ドッヂビーは柔らかいため、恐怖心を取り除く効果も期待できます。

### 3) ドッヂビー・ドッジ

スタッフが投げるドッヂビーを避ける種目です。2)と同様に「速い」「普通」「ゆっくり」と3段階にすることによって、参加者に応じて難易度を変えることができます。また、スタッフが足元や顔の周辺などに投げ分けることによって上手な逃げ方を覚えることが期待できます。

#### 4) ドッヂビー・パス

立っているスタッフに向けてドッヂビーをパスする種目です。「近い」「中間」 「遠い」という3段階の距離を設定し、狙った目標(スタッフ)に正確に投げる 正確性、距離に応じてスローの強さを調整する能力が求められます。

#### 5) ドッヂビー・フープ

キャッチ&スロー (ディスク版キャッチボール) を行う2人の間にフラフープを 固定した道具を置き、そのフープを通して相手にディスクを投げる種目です。 狙った場所に正確に投げる正確性が求められます。また、フープを通って飛んで くるディスクをキャッチするため、キャッチ能力も問われます。

●実際におこなう際には参加する人数や障がい種などにより選択をします。

# STAFFによる講評・感想

2019年2月の第1回Unified Flyingdisc Session (以下、UFS)の開催以来、あっという間に半年が 経過、異常とも言える猛暑の夏も過ぎた9月8日 (日曜日)当日の天気予報では大型台風の関東上陸に よる荒天の心配がありましたが実施時間が午前で あったことで影響を受けることなく、(ちなみに前回



は大雪予報の中、開催にふみ切った…)第2回UFSをおこなうことができ、参加してくださった方々の笑顔を見ることができました。





ご協賛を賜りました、ワタミ株式会社様、東京キリンビバレッジサービス株式会社様、 会場をご提供くださいました千代田区ドッヂビー協会様には改めて御礼申し上げます。









今回は、第1回に満足いただけたという結果の現れか、前回に引き続き2度目の参加の方が多く集まりました。いわゆるリピーターであることは申込書の確認であらかじめ把握できたことから、実施プログラムの内容はドッヂビーをアソビながら体験することが目的となるサーキットよりも、ディスクドッヂ・ゲームにより多く時間配分することを準備最終ミーティングで決定し、本番に臨むことができました。





プログラムを実施している途中、DBJAスタッフから「あの子にはどういう対応をしたらいいの?」という質問を受けました。また、プログラム終了後には障がい種の見分け方や、障がい種ごとの特性などを勉強したいという声もあがりました。





UFSにおいては、当日の参加者の障がい特性や反応に応じて、柔軟にプログラムの変更などを判断する必要があると考えています。そのためにはDBJAスタッフはもちろん、より多くのスタッフが経験を蓄積すると共に情報共有、具体的には勉強会の開催などによって交わされるコミュニーケーションがとても重要であると感じています。





今後の課題として感じたことは、

- ●新規の方々に参加していただくための情報発信の手段。
- ●特別支援学校・学級や作業所等と連携し、日頃からともに活動をされている支援者の 方々の意見も取り入れたうえでの啓発的な活動。
- ●知的・発達障がい以外の障がい種の方々にも参加いただける環境の整備。 などが挙げられます。

これからもDBJAは参加された皆さんからのご意見は本より、関係する様々な方との意見交換を積み重ねることを大切にして、より良いプログラムの展開をしていくことが重要な使命であると認識するとともに継続的な開催が全ての大前提になることをしっかりと踏まえ、活動していきます。





今後もご支援、ご協力を賜りたく、何卒、よろしくお願いいたします。

